

## 青年期へのアプローチ

——夢と箱庭を通して——

田畑 洋子

### One Approach to the Adolescence

—— through Consideration on the Dreams and Sandplay Works ——

Hiroko TABATA

#### 目 的

青年期は心身共に比較的安定した児童期の後にくるゆさぶりの時期である。その様相は種々な云い方であらわされてきている。ホール (Hall, G. S.) は「疾風怒涛」ということばで不安定さをあらわし、レヴィン (Lewin, K.) は「周辺人」として説明をしている。周辺人の行動特徴は情緒不安定と過敏性であり、子どもと大人の境界にある青年期にもこの特徴が見られるとしている。また、この嵐の時代を通り、「人格の再体制化」が行なわれるのであり、青年期は第2の誕生の時期ともされる。ルソー (Rousseau, J. J.) は『エミール』<sup>7)</sup>の中で「私達は、いわば、2回この世に生まれる。1回目は存在するために、2回目は生きるために。はじめは人間に生まれ、つぎには男性か女性に生れる」と、青年期の特徴をあらわしたことを残している。いずれにしても、青年期はライフサイクルの中での一つの大きな節目である。

青年期に関してすぐれた理論を提出したエリクソン (Erikson, E. H.) は乳児期から児童期までかけて獲得した不変性と連続性がくずれ、新たな不変性と連続性を得るために苦闘するのが青年期であるとしている。その結果身につくのが自我同一性の感覚である。自我同一性の獲得に失敗し、拡散状態に陥ると、さまざまな症状が出現すると考えられる。

青年期の人達の相談では“自分が分らなくなった”、“何をしたらいいか分からない”という訴えを聞くことが多い。失なわれた自己を取り戻すための援助をするわけであるが、それまでの生育史上の問題を整理し直す必要にせまられることも多い。問題によっては、ことばのやり取りだけでは核心にふれられないもどかしさを感じさせられる。意識的レベルへの働きかけだけでは一歩も前へ進めないということであろうか。そこで、もう少し心の深いレベルへ働きかけるために、夢や箱庭などが利用されている。ここではうつ状態にあった青年期の女性が夢と箱庭を通して一つの危機を乗り越えた例をあげ、面接の中で行なわれた内的な仕事の意味を考えることを目的とする。

#### 方 法

事例Aに対して、198×年11月28日より、198×+1年3月12日まで、1週1回、各回1時間の面接を計34回、フォローアップ面接を2回持った。面接中に報告された夢の記録、箱庭作品及び面接記録をもとにして、面接の経過をまとめる。夢は計155報告されたが、経過を示すの

に重要と思われる19を選び、要約を記述する。箱庭作品は16作られたので、それぞれのスケッチ画を提示し、製作後のクライアント(以下 cl. と記す)のことばの要点を記すことにする。( ) は cl. のことば、〈 〉はカウンセラー(以下 Co. と記す)のことば、「 」は夢を示している。

## 結 果

1. 事例(受付時21歳、大学4年生、女性)の概要 (1)主訴;身体と心がばらばら、感情が消えかかっている、居場所がない。(2)家族;父親、母親、兄3人、cl は下宿で一人暮らし。(3)来談経路;在学大学指導教官の紹介。

### 2. 面接の経過

#### 第I期 インテーク～第18回(5月12日)——夢の記録を中心に——

インテーク;夢①「分裂病の患者となって入院、キルティングの布がびしょびしょになる程、涙があふれていた。発病から再発、治癒までを記録した本の部分が再現されてる感じ。」(病気であるという意識は否定出来ないが、そんなに異常なのか疑問に思う。)

#1 夢②「小さな女の子が両親に捨てられ、あるきょうだいに拾われる。」(思い切り泣きたいけど涙が出ない。感情が消えかかっている。)夢③「カウンセリングを受けに行く前に大学に寄って行く。一中略-Y先生はその意味は“秘密を自分のものとして持っていることだ”という。)

#2 夢④「試験か何かを終えて家に帰ろうとしている。周囲の様子は田や畑ばかりで田舎の方みたいだ。」(誰かに守ってほしい。胎児になりたい。)

#3 夢⑤「就職のための書類を記入、家族欄の本人欄が中途な位置、書き間違えてしまう。」(誰にでもぼろぼろと話してしまう。ざるから水が漏れちゃう。)

#4 夢⑥「女の子を出産する。知っているのはつきそってくれた友人一人だけ。親には何も知らせない。」(両親に何もいってないのがおかしい。両親は放任というより無関心だった。)夢⑦「田畑先生と同じ部屋に宿泊している。母ともう一人の人が先生に相談をしている。それを見て、先生をひとり占めしたいような気持ちになっている。」

#5 夢⑧「Sさんが自殺しそう。自殺だけはしないように念を押して、私は病院に向う。」(カーテンを閉めてじっとしているのがいい。)

#6 (ゆうべ寝ようと思ったけど、悲しくなってきた、包丁で切るとか、ガス栓をひねるとか思った。)夢⑨「女の人が自殺、家族は金目のものがないかと話している。死んだ人のこと悲しんでいる人いない。」(自分が世界からいなくなっても世界は変わらない。)<本当に誰も悲しまないと思ってる?>(それ程影響ないと思う。)

#7 夢⑩「罪をかぶせられて、少年刑務所のような所へ連れて行かれ、脱走する。ある夫婦に助けられた。」(夢の中では助けられている。助けてもらいたいというのは甘えているのか。)

#8 (Sさんの家に花を持って行った。)

#9 夢⑪「年を取った男性に追いかけてるよう感じられ、道路に移って走って行く。ころんで怪我、若い男性が助けにきてくれたよう。」

#10 (中学時代、女の子の仲間に入れてもらえなかった。ファッションのぞくより、本屋のはしごの方が好き。)

#11 夢⑫「一人暮らしのアパートに田畑先生が引越してくる。部屋の間の壁がないようである。暴走族風の男性が入ってくる。次の日、又会ってしまい、おびえていると、先生が現れてひとにらみすると去って行き、助かったとほっとした。」夢⑬「何か、退治しに男女10人位で

行く。男性はジェットコースターが走るような線路の所を走らないといけない。男性の1人が女性の1人に花を手渡し、その人が先頭になって、一列になって歩いて行く。自分1人右側を歩いている。」(男には男のやるべきこと、女には女のやるべきことがあるという感じで、だけど協力が必要なのかな、どこかでつながりがあるのかな。)

#12 夢⑭「S先生が自分の娘の様子を教室で尋ねている。」(母親らしいけど場所をわきまえるべきじゃないか。教師として、母親としてと、足したものとしての女としてのS先生がいるということだとは思いますが、両方の立場を出されると、どう対応したらいいか分からない。)

#13 夢⑮「女性だけの集団が歩いている。車で追っかけてきた男性がいて、2、3人戻ってしまった。女だけの世界から男女の世界へ。やっぱり女だけじゃ駄目という雰囲気。」(ひとつとき放たれた感じ。枠からはみ出しちゃいけないといい子すぎた。)

#14 夢⑯「会場に飾るものと、贈るためのものと花束を二つ持ってくる。」(派手じゃないけど地味でもない感じ。ピンクっぽい色。)

#15 夢⑰「島に抑留されている。難問に答を与えることが出来れば自由になれそう。」(箱庭のイメージの夢、特に楽しみもないが大きな不満もない。無理に逃げ出すこともない。)

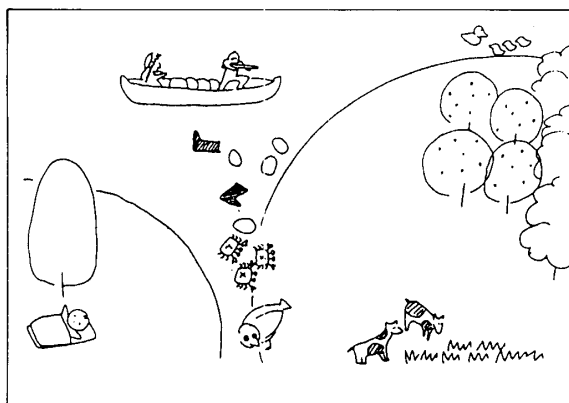
#16 夢⑱「S薬品らしき所でアルバイトをしているよう。」(アルバイト先では、真面目な話も出来たし、冗談もいえた。大人の場所としてのイメージがある。)

#17 夢⑲「虫歯が右側にも一本あって、今度治療しなければならぬとのことである。」

#18 (箱庭をやりたい)

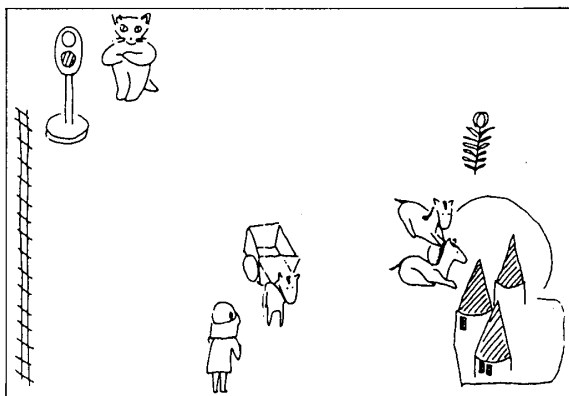
第Ⅱ期 第19回(5月19日)～フォローアップ(翌年10月17日)——箱庭作品を中心に——

#19 箱庭① 湯治場と病院、あひるが狙われている。亀と鳥(傷ついている)が湯治という感じで休んでる。赤ん坊が眠ってる。何故か靴が海にばらまいてる。海に何も無いというのは、というのでばらまきたくなる。全体が病院という感じ。ここ(青の部分)で治療するようになってる。花が枯れると駄目になる。ここへは皆が来れない。まず、信号が青の時しか来れないし、猫が色々な問題を出して、答えないと入れない。

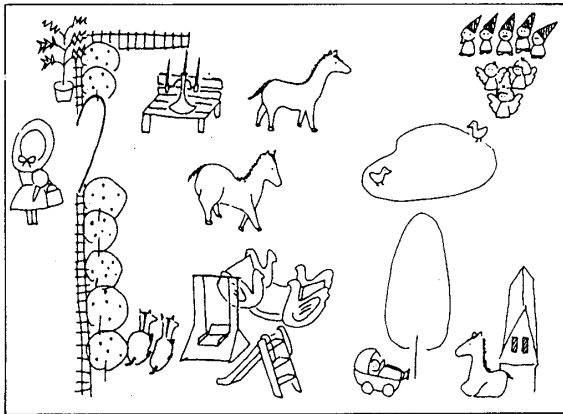


箱庭①  
左箱  
茶砂

#20 箱庭② 白の世界、女の子がアーチから入ろうとしている。入るには資格がある。話をする植物がいて、ここで決める。入った後はキャンドル持って歩く。ぼやっとしていて暗いから。楽隊が少し離れてB.G.M.をしている。家の人赤ん坊を木影に置いている。だけど平和すぎて退屈かもしれない。メーテルリンクの青い鳥みたいか



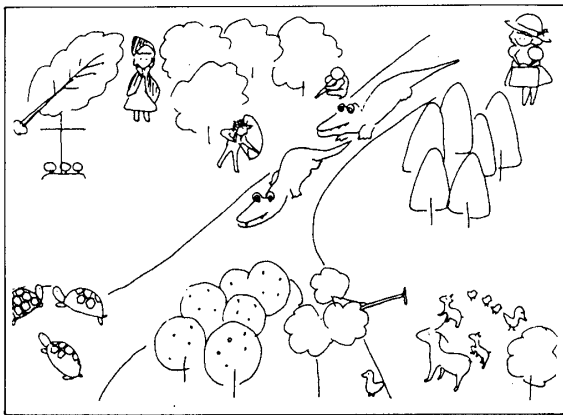
箱庭①  
右箱  
白砂



箱庭②  
白砂

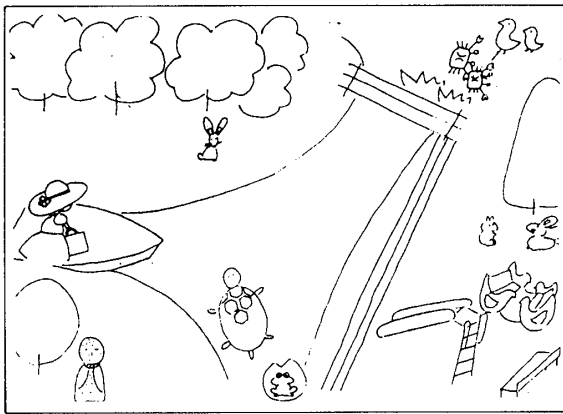
もしれない。幸せは遠い所でなくて、近くにあるということ。

#21 箱庭③ 森の中、女の子がやってきて入ろうかどうか迷っている。入ってきてても居場所がないかもしれないし、家もないし。原住民が右下のやぎを狙っている。都会から来た人が原住民を狙っている。亀はわにの来ていることに気づいていない。鳥は気がついていないかも知れないけど、木が倒れて、死角になっていてわにから見えない。赤ずきんちゃん、戦いを止めさせようと来た。



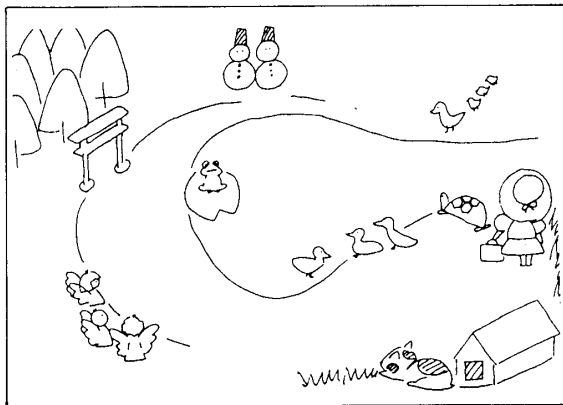
箱庭③  
茶砂

#22 箱庭④ 雪解けの森、森で雪解けが始まりかけている。自然公園で小動物がいる。小鳥が一匹だけはみ出しかけている。こちらは何故か紅葉の季節。女の子が入ってきちゃった。どっちに行こうかなと迷っている。



箱庭④  
茶砂

#23 箱庭⑤ 雪娘の話、春近かしという感じ。おじいさんとおばあさんがいて、子供がないので雪だるまをつくと娘になる。ストーブのそばに行ったり、熱いものを食べないようにしているが、春になると溶けてしまう。天使が“もうすぐ春になって溶けてしまう”と警告している。溶ける所を見られたくないので、それまでにどこかへ行ってしまおう。河に橋がないので、亀の背中に乗っていく。



箱庭⑤  
白砂

#24 箱庭⑥ 果樹園と子供達、赤ん坊がいるので犬が一匹残っている。家の人は仕事でどこかに出かけている。女の子が舟から降りてきた。まだ一緒に遊ぶ程ではない。

#25 箱庭⑦ 生と死の国、赤ちゃんばかり、今生れたばかり。死の国、お墓がある。象と亀はもう死にかかっている。死に場所を捜している。赤ずきんちゃんが何に頼ったらいいのか迷っている。

#26 箱庭⑧ これが母さん、女の子はどこに行こうかなと思っている。子供達が公園へ遊びに行こうとしている。

お母さんが“いってらっしゃい”と見送っている。こちら（右下）は見える人には見えるし、見えない人には見えない。女の子には見えている。これは危害は加えないけど、あんまりよくないもの。

#27 箱庭⑨ 行進

#28 箱庭⑩ 街，女の子が駅に降りて，どっちの道に行ったらいいか迷っている。もやがかかった春の朝。天使の向うには教会がある。

#29 箱庭⑪ お母さん達が立話，子供たちは遊びに行こうとしている。“いってらっしゃい”と見送っている。舟が橋の代わり。女の子は学校に行こうとしている。学校はこちら側（箱の左の外），向こう（右上）は動物とかいる公園。これは（左上）捨て子，女の子が見に行こうかと思っている。

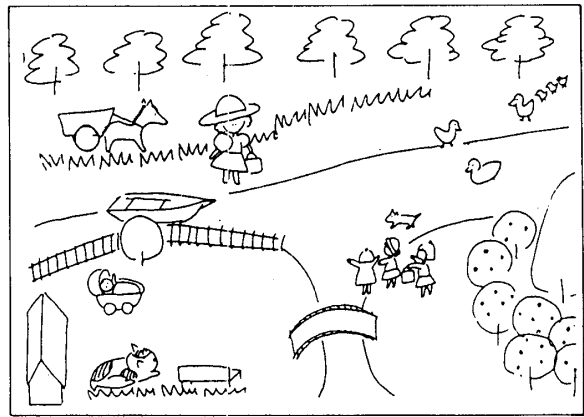
#30 箱庭⑫ 休日の家族づれ，おばあさんとお母さんが休憩している。女の子も休憩して誰かを待っている。にこにこしている表情はいい。ずっと黄色いトラックを置きたいと思っていた。荷物を一杯積んで，それを下ろすという感じで置きたかった。

#31 箱庭⑬ おばあさんと女の子とその友達，男の子はどっかへ遊びに出かける。

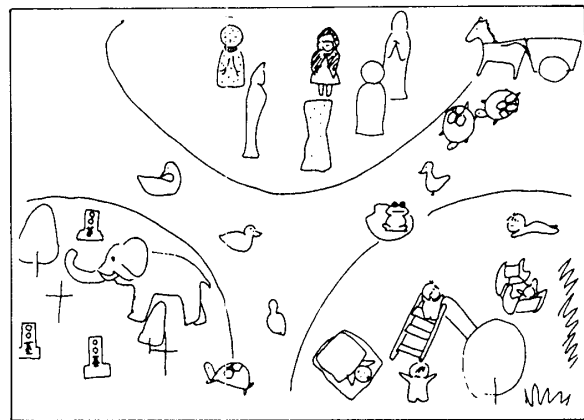
#33 箱庭⑭ かくれんぼ，池を作りたい，真ん中に山を作って木を植えたい，それだけを思ってきた。木はもっとどっしりしたものとよかった。何か奇妙なものを置こうかと思って搜したけど，何となく置けなかった。

#34 箱庭⑮（図は略）子供達と母

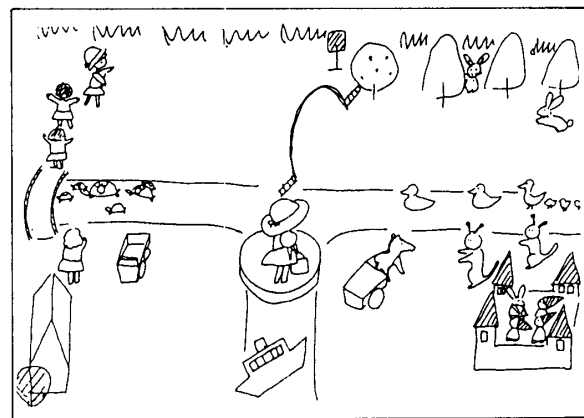
フォローアップ 箱庭⑯ 左の方は日常の世界，おじいさんとおばあさんが子供を連れて遊びに行ってる。社会を離れてのんびりした感じ。右は宗教の対立，平和，平和といってるが戦争があるじゃないか。天使がどうなるのかなと見てい



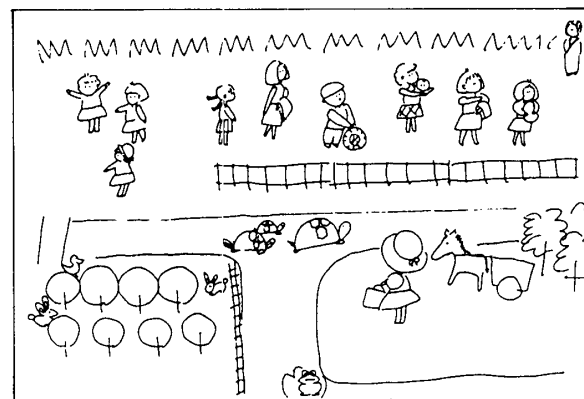
箱庭⑥  
茶砂



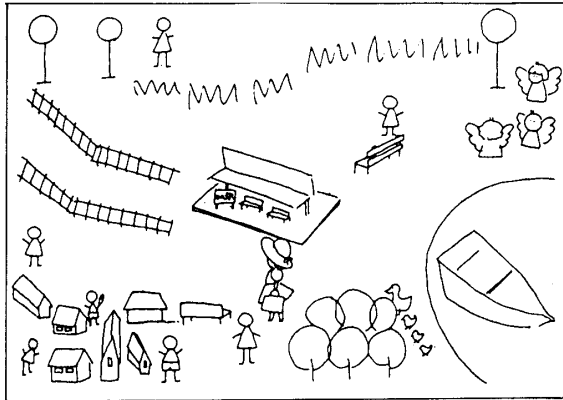
箱庭⑦  
茶砂



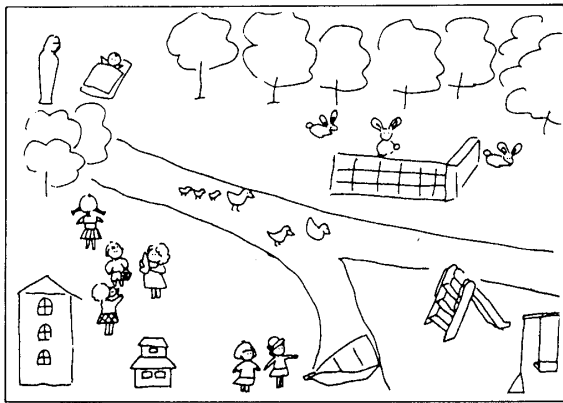
箱庭⑧  
茶砂



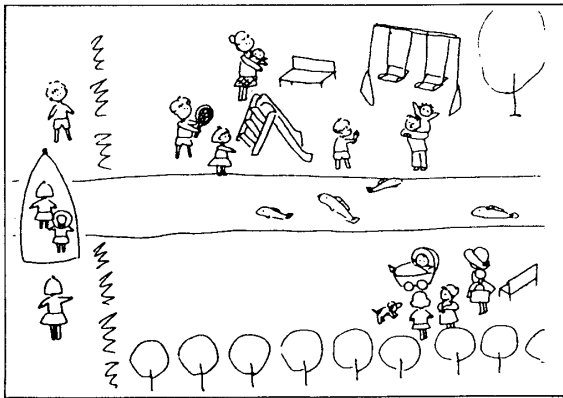
箱庭⑨  
茶砂



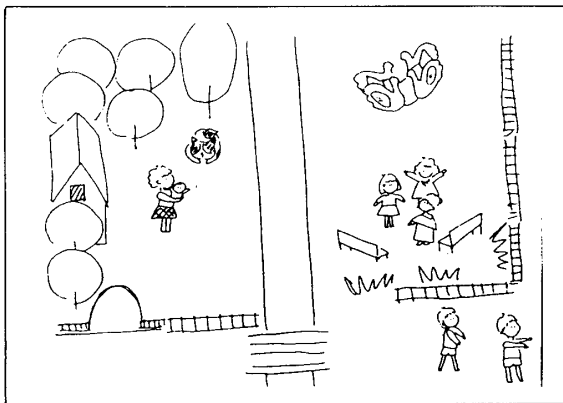
箱庭⑩  
茶砂



箱庭⑪  
茶砂



箱庭⑫  
茶砂



箱庭⑬  
茶砂

る。ピンクの花は『モモ』の時間の花のような感じ。

なお、箱庭製作をした後の時間に毎回カウンセリングを行なっている。

## 考 察

### 1) 夢の仕事—死ののりこえ

#### I 期 治療導入—治療目標を示す

インタビューと#1の夢はこれから治療関係に入り、何を目標とすればいいのかを示してくれている。まず、夢①はclが現在うまくいっていないこと、治療を受けなければいけないことを示している。分裂病の発病不安があり、clが危機状態にあることが感じ取られるのである。しかし、治癒に至るのが示されているのはほっと出来る部分である。Coはこの夢に支えられて、clについて行く決心をしたともいえる。また「キルティングの布がびしょびしょになる程、涙があふれる」という部分は治療目標を示している。すなわち、消えかかっている感情を取り戻すこと、具体的には涙を流せるようになることである。

次の夢②は両親に捨てられる小さな女の子の夢である。これはまさにclが親との間で体験していることである。親との関係を回復し、小さな女の子を無事に育てていくことがもう一つの目標である。親との関係を考え直す中で、親、特に母親の愛情を確認し直すことであるが、Coとの関係の中で、基本的な安らぎ感をどのように体験出来るかが問われてくるであろう。

最後に夢③には“秘密を持てるようになる”という目標が示されている。思春期になると子ども達は秘密を持ち始めるものである。自分だけの秘密のこともあれば、秘密の隠れ家のように仲間の秘密のこともあるが、自我が成長してくることを示している。自我境界の強化ともい

える目標である。

### Ⅱ期 退行一親との関係を考える

この間、少しずつ退行が始まり、親との関係が話題になる。まず、夢④で田舎の家に帰ろうとする。しかし、「特急券なしでびくびくして列車に乗っている」状態である。次の夢⑤も家族関係を想起させるものである。家族の中で位置が定まらない、居場所のない不安定さを示していると考えられる。夢⑥で感じられるのは妊娠、出産という大切な出来事に両親が関わってこない淋しさである。clは両親との関係を連想し、(自分の両親に何も云ってないのはおかしい) という。

夢⑦ではCoへの依存、転移感情が出てきていることが示される。しかし、現実のclは素直に甘えを向けてこない。Coはそのそっけない感じに、夢とのギャップを感じている。次に、母親もCoに何かを相談しており、clとはCoをめぐるライバル関係になってしまっている。母親自身、誰かに支えられないといけない状態であり、clにそそぐ余力はなさそうである。

### Ⅲ期 死の不安—助けられる体験でのりこえる

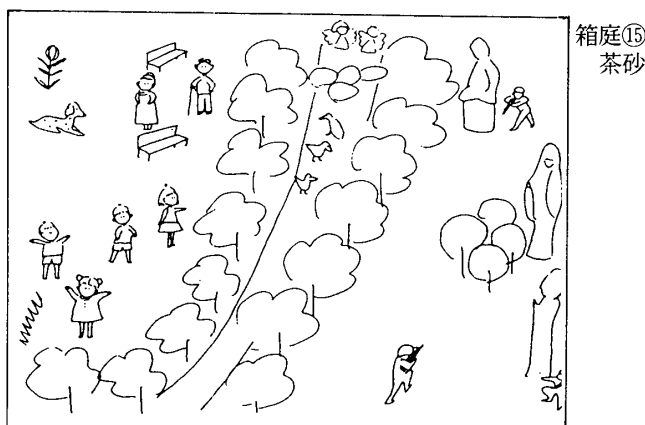
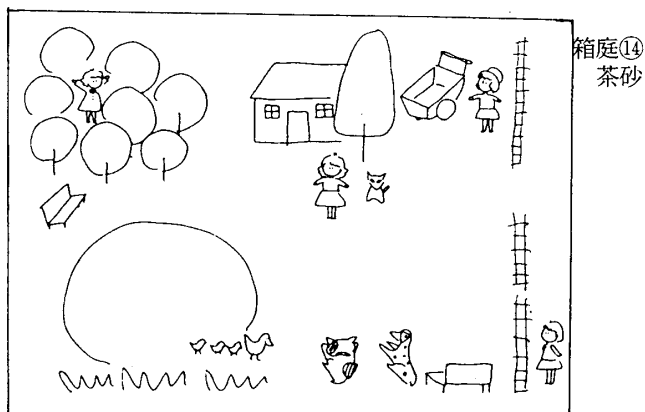
夢⑧のSさんはやせ症(?)で死んだ友人であり、clにとって(ありのままの自分を出せ、ほんと出来た、生れてから最初で最後の人)である。この頃、死の不安がclの心を占めていたと思われる。しかし、Coをどきっとさせるようなことばがさらりといつてのけられ、感情が伝わりにくい。ことばに感情が伴わないことで、Coはとまどい、落ち着かない気持ちにさせられる。clの高校時代、母方祖母が自殺しており、その頃から生と死を考え続けている。母親もおそらくうつ状態に陥っていたのだろう。

夢⑨では終に女の人が自殺する。しかし、誰も悲しむ人がいないというclの孤独感が示される。Coは素直に甘えを求めないすねのようなものを感じ、〈ほんとに誰も助けてくれないと思ってるのか〉と問いかける。

夢⑩は(先生が先回いわれて見た夢)であり、人に助けられる体験をする。自分を助けてくれ、今は寝たきりになってしまった人は母のような気もするという。現在はclの求めに応じてくれない母であるが、どこかで支えてくれたのを感じることが出来たのではないだろうか。この頃、clは帰郷し、Sさんの家を持って訪れる。親とも話をしようと努力するが、(母親は100%母親じゃない。どこかで見えない所、分らない所がある)といい、母親のイメージを捉え切れない。

### Ⅳ期 男性と女性—女の子になる

前期で一つの段階を越え、女性性が問題になってくる。(ファッションをのぞくより、本屋



のはしごの方が好き) という cl であり, 同性集団に根づくべき中学時代にも, (女の子の仲間に入れてもらえなかった) ことが想い出される。男性からの侵入を怖れる気持も強くあり, 夢⑫では Co が荒々しい男性を追い払う役目をしている。しきりのない部屋に Co が越して来るというのは, やはり cl の自我境界の弱さを示しているといえるだろう。

次の夢⑬はイニシエーションの夢と考えられる。(男性, 女性になるためには, それぞれやることがある) というのであるが, cl は一人女性の集団からはずれている。女性性の獲得にはまだ時間がかかることが予想される。

夢⑭は対象をトータルにとらえることが困難な cl の心性を示している。Co に対しても同じようなどまどいを抱えていることが推察されるのである。夢⑮は cl の心を解放したようであり, 夢⑯につながっていく。この回, cl は髪をショートカットに整え, ピンクのカーデガンを来て入室した。それまでの黒白など無彩色の洋服からの変化が見られた。

#### V期 これからの課題—箱庭に移る

夢⑰の報告では Co は風景をありありと思い浮べることが出来, (箱庭のイメージである) ことを伝えると, cl も同じように感じている。夢⑱でもう一つやることがあるのを示された後, cl から (箱庭を作りたい) と申し出がされる。

#### 2) 箱庭の旅—母を求めて

一連の箱庭作品に示されたのは, 一人の女の子が自分の心の中にある川を下って行き, その奥にある怖いものを見, 一方では母親にも出会って, 普通の世界に戻ってくる, 内面への旅であると考えられる。まず, 最初の箱庭は初回夢と同じく, これから入ろうとする治療の場を現わしている。左側は湯治場, 右側は病院である。共に治療の場ではあるが, 異質な二つの世界でもある。左側は山深い自然の中でゆっくりと傷をいやす場であり, 大地に触れ, 地下に降りていく世界である。左すみの赤ん坊は夢でも出てきた捨て子のテーマであるが, この赤ん坊がどのようにして母親と出会っていくことが出来るのか気をつけていきたい。それに対して右の白い世界は病院で象徴される科学の世界であり, 精神性の世界である。最後に置かれたピンクの花が印象的であった。この花を枯らさないように育てていかなければいけないと思う。

次の箱庭②ではこの二つの世界が一つの箱におさめられている。平和な世界ではあるが, 暗くてぼんやりとしている。灯をともして歩いて行かねばならない。帽子をかぶり, トランクを持った旅姿の女の子が, 今, アーチから入ろうとしている。cl はこれから自分のうす暗い心の奥を灯をともしてのぞいていこうとしているのだろう。

箱庭③で一步踏みこむと, そこは弱肉強食の殺し合いの世界である。女の子は入るのをためらって箱の枠の上におかれるが, 赤ずきんちゃんは戦いをやめさせるために入りこんでいる。赤ずきんちゃんも女の子と同様, cl の自我像と考えられよう。この時砂箱に水を入れてどろどろにして作っているうちに, 幼い頃のことを想い出していく。家の前には川が流れていたし, その先の川では泳いでいたこと, かにや魚もいたこと, とんぼのはねをちぎるなど残酷な遊びもしていたこと, 山も近くにあり, 崖をのぼった等々, ふるさとの思い出が語られ, 帰郷を考え出す。

箱庭④では女の子が終に森の中に入ってくる。左すみにはこれからの女の子の旅を守るように地蔵が置かれる。川を進んでたどり着いたのが次の箱庭⑤で作られたふるさとのイメージである。春を待つ気持と同時に, そうなれば消えてなくなるはかない存在であることが「雪娘」の話を通して伝えられる。安住は出来ずに亀の背中で旅を続ける。実際, cl はこの頃帰郷する



が、やはり（母親の気持が分らない）といい、帰名後熱発する。次の箱庭⑥もふるさとのイメージが作られ、女の子も舟から降り立ち、子ども達に迎えられる。家が左すみに落ち着き、赤ん坊には犬が付きそうようになる。

最後にたどりついたのが箱庭⑦、生と死の国である。左方は死の国、右下は生の国、真中に生と死をつかさどる宗教の世界が置かれる。やはり死の問題がclの心を占めており、（いつ死んでもいいなあ）とつぶやき、（がんでも親に知らせなくてもいい、同じように世界は動く）という。この頃、両親に手紙を出したりして、clは親の気持を必死で確かめようとするが、確たる反応は得られない。それはまたCoの気持を確かめ、この世にひきとめる力を求めるclの気持でもある。Coは〈そういうことばはいうものではない、すねである〉と強くいう。また、この回祖母の自殺も話題になる。

次の箱庭⑧を作ったの第一声が（これがお母さん）だった。赤ちゃんは母親に抱かれ、そばに乳母車が置かれる。やっと母親が登場したのである。右下方は奇妙な世界、女の子は見なくてもいいものを見てしまったのだろう。

箱庭⑨は現実的なことを話題にしながらかつていく。パン、買物かごを持った女性、赤ちゃんを抱いたお母さん、タイヤをころがす男の人、女の人、女学生、犬の行進を女の子がこちらの岸から眺めている。まだ、社会に入るには早いが、深い森から抜け出しているのが感じられる。そして次の箱庭⑩で女の子は駅に降り立つ。普通の街に帰ってきたのである。右上は天使、教会の精神性の世界である。この頃もう一度帰郷し、（家で割に話してきた）と報告される。母から“着物作るから”という電話があったという。clは就職のことを相談したいのに、母親はclのために和服を作ろうとしている。どこかずれた関係ではあるが、少しずつつながりは持てるようになってくる。宅急便で野菜が届いたことも報告される。また、この頃clはよく泣くようになり、ただ涙が流れるようになる。ここで治療目標の一つであった感情を取り戻すことは達成されたと考えられる。

箱庭⑪も普通の町、左上に再び赤ん坊が寝かされる。最初の回に出てきた赤ん坊であり、捨て子であるが、今度はマリヤ像が見守っている。

次の箱庭⑫ではおばあさんが登場し、祖母—母—娘のつながりが出来てくる。次の⑬もやはり祖母と母、娘の世界である。男の子は囲いから外に出されている。

箱庭⑭は2ヶ月余り後の作品である。真中に土が盛り上げられ、大きな木が立てられる。エネルギーの集中が感じられ、一つの山を乗り越えたことが示されている。

最後の箱庭⑯は更に9ヶ月後の作品である。最初2つの箱庭に示された世界が一つにおさめられている。左側の湯治場は祖父母と孫の日常の世界になり、左上には最初の回に出てきたピンクの花が咲いている。捨て子は拾われ、女の子に成長したといえるだろう。右側はさまざまな宗教的シンボルであらわされる精神の世界であり、鉄砲をかまえた男性が入りこんでいる。このような男性的な世界とどのように触れ合っていくかが今後に残された課題である。

面接の中で、clは付き合い始めた男性との関係を考えていった。この男性との関係で、感情が開かれ、涙を出したり、素直に甘えることが出来るようになっていった。就職という現実的な出来事により、終結を迎えたのであるが、Coとの関係から男性との関係に移行していったと考えられる。一種のアクテング・アウトでもあり、治療関係の中で充分にアクト・インさせ得なかったのは、当時のCoの限界だったかとも今にして考えられるのである。

ともあれ、Coへのポジティブな転移感情に支えられて、死の不安を乗り越え、感情を回復することが出来た。現実の母親との関係は回復が困難であったが、心の深いレベルでの母性に

触れることが出来、女性性獲得のための準備は整ったと考えられる。このような内的作業は、言語的手段のみでは困難であり、夢や箱庭による表現が有効であったと考えられる。

### 要 約

うつ状態にあった21歳の女性の夢と箱庭による治療経過を提示し、その中でなされた内的作業について考察を加えた。イメージの表現によって、clは母親に支えられる体験をし、うつ状態を乗り越えた。言語レベルでのアプローチが困難な青年期の問題に対しては、箱庭や夢が有効な手段を提供することが示された。

### 付 記

今回、治療の経過を公表するにあたり、クライアントのAさんには了承をいただいているが、プライバシー保護のため具体的な話題や情報を省略したことをお断わりしておきたい。Aさんには貴重な資料を公開することをお許しいただき深く感謝すると同時に、これからの人生が安かれと切に願っている。

なお、箱庭のスケッチ画は教育研究所研究員渡辺すみ江さんが、写真にもとづいて描いて下さったものである。ここに記して感謝致します。

### 引用及び参考文献

- 1) Ausubel, D. P. (1954) : Theory and Problems of Adolescent Development, Grune & Stratton.
- 2) Erikson, E. H. (1959) : Identity and the Life Cycle 小此木啓吾訳編 (1973) 自我同一性, 誠信書房.
- 3) Hall, G. S. (1904) : Adolescence-Its Psychology and its Relations to Physiology, Anthoropology, Sociology, Sex, Crime, Religion and Education 元良勇次郎他訳 (1910) 青年期の研究, 同文館.
- 4) Hall, J. A. (1983) : Jungian Dream Interpretation 氏原寛他訳 (1985) ユング派の夢解釈—理論と実際, 創元社.
- 5) 河合隼雄編 (1969) : 箱庭療法入門, 誠信書房.
- 6) Lewin, K. (1952) : Field Theory in Sociat Science 猪股佐登留訳 (1985) 社会科学における場の理論, 誠信書房.
- 7) Rousseau, J. J. (1762) : Emile Ou De L'education 今野一雄訳 (1963) エミール (中), 岩波書店.